

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：82619

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12250

研究課題名（和文）江戸時代後期における風景表現に関する研究

研究課題名（英文）Research on landscape paintings in the late Edo period

研究代表者

大橋 美織 (OHASHI, Miori)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：10584477

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：江戸時代後期に活躍し、風景画も描いた文人画家岡田半江の作品を合計109件（掛軸102件、画卷6件、画帖1件）調査・撮影し、基礎的なデータを収集した。可能な限り作品を編年順に落とし込むことで、半江独自の精緻な作風に至る制作態度の変遷や、また真贋についても知見を深めることができた。コロナ感染症の期間は所蔵品の調査に努め、その成果を論考や講演会、オンラインギャラリートークで発表するとともに、東京国立博物館本館にて「日本の文人画」、「近世絵画における海外との交流」等をテーマとした展示を毎年度1回は開催し、広く公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸後期に重要な風景画を描いた岡田半江について、109件の調査を基に、父・米山人の影響が強い時期から半江独自の精緻な作風に至るまでの変遷や真贋について知見を深めたことは、江戸時代の風景表現を探るうえで意義深いことであった。また、コロナ感染症の影響から所蔵品調査へと切り替えたことで、今後の研究方法の新たな切り口を発見することができた。オンラインギャラリートークの公開により、海外にも日本の文人画、風景画に関する内容が共有され、国内外の研究者から情報提供を得ることもできた。さらに、東京国立博物館本館にて本研究に関わるテーマ展示を毎年度1回は開催することで、広く社会・国民に対しても成果を公開した。

研究成果の概要（英文）：The goal of this project was to collect the fundamental data of the works by Okada Hanko, a renowned literati artist who also executed landscape paintings, and to situate them in the entire history of landscape painting in the late Edo period. The first step was carried out by taking the measurements and checking the current state of the works, followed by taking the photographs of them, the total of which amounted to 109. Based on this data, I have then made a timeline of his oeuvre from his early to later stages of his career. This has given me many insights into the authenticity of his works. The findings have been widely disseminated through the articles, lectures, online gallery tours and the yearly exhibitions at Tokyo National Museum, focusing on themes such as literati paintings in Japan and the contacts between the painters in the early modern period and foreign cultures.

研究分野：日本近世絵画

キーワード：日本美術史 風景画 文人画 岡田半江 耶馬溪

## 1. 研究開始当初の背景

日本絵画の風景表現に関する先駆的な研究としては、辻惟雄氏による「真景の系譜 中国と日本(上・下)」(『美術史論叢』1号、1985年・同3号、1987年)があり、その後、成瀬不二雄氏『日本絵画の風景表現 原始から幕末まで』(中央公論美術出版 1998年)、鶴岡明美氏『江戸期実景図の研究』(中央公論美術出版 2012年)等の著書が発表され、幅広い時代を網羅した風景図の紹介・研究、また谷文晁といった個々の画家に関する風景表現の考察は研究が進んだ。また、『描かれた日本の風景』展(静岡県立美術館 1995年)、『山水に遊ぶ 江戸絵画の風景 250年』展(府中市美術館、2009年)、『江戸後期の新たな試み 洋風画家谷文晁・渡辺華山が描く風景表現』(田原市博物館、2011年)をはじめ風景表現を中心とした展覧会も開催され、2009年には、韓国を代表する真景山水の画家、チョンソンの没後 250 年を記念する展覧会が韓国国立中央博物館で開催されるなど、その傾向は日本のみならず、広く東アジアにおいても指摘できる。

しかし、江戸時代後期の画家たちが、どのようなネットワークの中で、いかなる西洋・中国・朝鮮絵画を実見し、その体験をどのように実制作に反映したのかという点については、未だ解明されておらず、より具体的な実例を挙げての詳細な研究が求められていた。

## 2. 研究の目的

近世絵画を考える上で、西洋・中国・朝鮮からの影響を念頭に置いての考察は、極めて重要な問題であるが、解明されていない点も数多い。本研究では、江戸後期の画家たちのネットワークにおける西洋・中国・朝鮮絵画学習の様相を調査・分析することで、それが彼らの風景表現にどのような影響を与えたのかを検討する。江戸時代後期の画家の中でも、特に、未解明な事柄が多く残される文人画(岡田半江を中心とする)に焦点をあて、現存作品の悉皆的な調査を行う。また、唐絵・版本・浮世絵といった同時代の他分野へも視野を広げて研究し、それぞれの表現における西洋・中国・朝鮮絵画からの影響を抽出する。さらに、彼らがどのようなネットワークの中で、何を学習し実制作に活かしていたのかも明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

### 岡田半江の作例の悉皆的な調査

岡田半江作品の所在を調査し、所在が判明したものは実作品の悉皆的な調査・撮影を行い、基礎的なデータを収集・作成する。

### 江戸時代以前から日本に伝来する西洋・中国・朝鮮絵画の調査

江戸時代以前から日本に伝来した可能性の高い西洋・中国・朝鮮絵画に関する所在を調査し、それらの実作品についての調査・撮影を行い、岡田半江並びに、彼らと交流していた画家たちの作例との影響関係を具体的に探る。

### 岡田半江の人的ネットワークの解明

岡田半江が活躍した京都・大阪における人的ネットワークを通して、彼らを取り巻く画家たちが、西洋・中国・朝鮮絵画を摂取したルートを探り、さらに実作品への影響を解明する。

## 4. 研究成果

上記の方法に則り、研究期間において以下の研究成果を挙げることができた。

### 悉皆調査

岡田半江の作品を合計 109 件(掛軸 102 件、画卷 6 件、画帖 1 件)調査・撮影し、基礎的なデータを収集することができた。作品数が多く未だ悉皆の途中段階ではあるが、まとまった数の作品を調査できたことで、可能な限り作品を編年順に落とし込んだ。それにより、父である岡田米山人の影響が強い時期、半江独自の精緻な作風に至るまでの制作態度の変遷や真贋について知見を深めることができた。

### 岡田半江以外の風景表現の研究

江戸時代中・後期における風景表現を包括的に理解するため、流派にこだわることなく、円山四条派・文人画・狩野派・やまと絵・浮世絵に描かれた風景表現についても調査と研究を行ない、その成果を講演会、論考、東京国立博物館本館展示室にて紹介した。

### 所蔵品の研究

コロナ感染症と研究時期が重なったことにより、予定していた調査が中止・延期となったため、所蔵品の調査にも力を入れた。特に江戸時代後期に頼山陽によって新たに創られた名所である「耶馬溪」に焦点をあて考察を始め、コロナで渡航のできない海外の所蔵館からは作品画像を取り寄せ題跋の読み解きなど研究を進めた。その結果、江戸時代後期から明治時代にかけて、耶馬

溪が持つ名所イメージの変遷の解明を試みることは、江戸時代後期の風景表現を考える上で極めて意義深いことを認識、新たな切り口を発見することができた。

また、作品の保存箱の箱書きや箱の中に収められた添状、書き継がれた数々の題跋を読み解く中で、自らの想いを書き付けた付属資料が、美術的・文学的・歴史的にもそれぞれ固有の学術的価値を持つことも改めて認識した。それにより、本研究の調査研究を発展的に受け継ぎ、18～19世紀の文人ネットワークとそこで享受された風景表現の諸相について、総合的把握を目指す、新たな研究題目を設定することができた。

研究成果は論考や講演会、オンラインギャラリートークで発表するとともに、東京国立博物館本館にて「日本の文人画」、「近世絵画における海外との交流」等をテーマとした展示を毎年度最低1回は開催し、広く公開した。

#### 展示による成果公開

本研究の成果の一部は、下記により広く公開することができた。

#### 〔展示〕

- ・テーマ展示「近世絵画における故事人物」東京国立博物館本館7.8室、2019年
- ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2019年
- ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2020年
- ・テーマ展示「近世絵画における海外との交流」東京国立博物館本館7.8室、2021年
- ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2021年
- ・テーマ展示「木曾街道六十九次之内シリーズ全公開」東京国立博物館本館10室、2021年
- ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2022年
- ・特集陳列「近世のやまと絵」東京国立博物館本館7.8室、特別2室、2023年
- ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2023年

#### 〔論文等〕

大橋美織「江戸時代の風景画の流行ときもの」(特別展「きもの KIMONO」展図録、査読無、2020年、pp.316～318)

大橋美織「江戸後期から明治にかけての文人趣味～静嘉堂所蔵品を中心に～」(浦上玉堂関係叢書 別冊、依頼原稿、2021年、64～69)

大橋美織「杜秋艇「耶馬溪図巻」(『美術フォーラム21』第45号、依頼原稿、2022年、pp.4～7)

大橋美織「浦上玉堂筆 山水図扇面」(『國華1532号』、依頼原稿、2023年、pp.43～45)

#### 〔学会発表等〕

大橋美織「江戸時代後期の風景表現について」(静岡県富士山世界文化遺産センター主催「富士山に迫る」展記念講演会、2018年)

大橋美織「東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について」(台湾中央研究院主催、狩野派與中國/台日聯合工作坊、2019年)

大橋美織「東京国立博物館の旧植松家コレクション」(静岡県教育委員会主催、2022年)

#### 〔図書〕

東京国立博物館編『東京国立博物館所蔵 近世やまと絵50選』吉川弘文館、2023年、総頁数112

#### 〔その他〕

台湾中央研究院主催、狩野派與中國/台日聯合工作坊

「東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について」

[http://mingching.sinica.edu.tw/cn/Academic\\_Detail/781](http://mingching.sinica.edu.tw/cn/Academic_Detail/781)

東京国立博物館オンラインギャラリートーク「日本文人画の世界」配信(2021.4.6配信開始)

<https://www.youtube.com/watch?v=2rH9OIVnBVw>

東京国立博物館1019 ブログ 近世やまと絵を楽しむ

<https://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2023/11/07/kinseiyamatoe>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大橋美織	4. 巻 第45号
2. 論文標題 杜秋艇「耶馬溪図巻」（東京国立博物館蔵）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『美術フォーラム21』	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋美織	4. 巻 0
2. 論文標題 江戸時代の風景画の流行ときもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特別展 きもの KIMONO 図録	6. 最初と最後の頁 316 318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋美織	4. 巻 1532号
2. 論文標題 浦上玉堂筆 山水図扇面	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 43-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋美織	4. 巻 0
2. 論文標題 江戸後期から明治にかけての文人趣味～静嘉堂所蔵品を中心に～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文人性と文人画 近代日本への継承と海外での受容 浦上玉堂関係叢書『浦上玉堂父子の芸術』別冊)	6. 最初と最後の頁 64 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大橋美織
2. 発表標題 東京国立博物館の旧植松家コレクション
3. 学会等名 第13回富士山世界遺産セミナー 東海道・原の文化誌（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大橋美織
2. 発表標題 江戸時代後期の風景表現について
3. 学会等名 「富士山に迫る」展記念講演会 静岡県富士山世界文化遺産センター（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋美織
2. 発表標題 東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について
3. 学会等名 台湾中央研究院主催、狩野派與中國 / 台日聯合工作坊（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 松嶋雅人、土屋貴裕、大橋美織	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 112
3. 書名 東京国立博物館編 『東京国立博物館所蔵 近世やまと絵50選』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京国立博物館本館展示  
 ・テーマ展示「近世絵画における故事人物」東京国立博物館本館7.8室、2019年  
 ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2019年  
 ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2020年  
 ・テーマ展示「近世絵画における海外との交流」東京国立博物館本館7.8室、2021年  
 ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2021年  
 ・テーマ展示「木曾街道六十九次之内シリーズ全公開」東京国立博物館本館10室、2021年  
 ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2022年  
 ・特集陳列「近世のやまと絵」東京国立博物館本館7.8室、特別2室、2023年  
 ・テーマ展示「日本の文人画～中国へのあこがれ～」東京国立博物館本館7.8室、2023年

東京国立博物館オンラインギャラリートーク「日本文人画の世界」  
<https://www.youtube.com/watch?v=2rH90IVnBVw>

台湾中央研究院主催、狩野派與中國／台日聯合工作坊  
 東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について  
[http://mingching.sinica.edu.tw/cn/Academic\\_Detail/781](http://mingching.sinica.edu.tw/cn/Academic_Detail/781)

東京国立博物館 1089ブログ 近世やまと絵を楽しむ  
<https://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2023/11/07/kinseyamatoe>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------